

【担当教員名】 渋谷優子 新谷恵子 荒木玲子 栗原弥生 阿部勝子 石山香織	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：GIO>】

PBLでは、事例を使用し、急性期看護を自ら学習し、習得する。

急性状態にある対象の病態や生体反応を理解し、急性期にある対象に必要な看護援助の方法を習得する。

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

1. PBLの学習方法により周手術期にある対象を理解し、アセスメントができる。
2. 急性状態にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を記述する。
3. 急性状態にある対象に必要な援助を説明する。
4. 具体的な援助方法を列挙する。
5. 急性期にある対象への看護の特徴とその看護目標を設定する。
6. 急性状態にある対象への看護過程が展開できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	PBL 事例1 胃がんのダンピング症状により食事摂取ができない人	1	PBL
2	PBL 事例2 乳がんのボディ・イメージの変容と再発の不安を持つ人	1	
3	PBL	1	
4	PBL	1	
5	PBL	1	
6	PBL	1	
7	PBL	1	
8	PBL	1	
9	オリエンテーション（授業の進め方） 急性期にある対象の事例展開 事例の提示	2～6	演習：全員
10	事例展開：グループワーク	2～6	演習：全員
11	事例展開：グループワーク	2～6	演習：全員
12	事例展開：グループワーク	2～6	演習：全員
13	事例展開：グループワーク まとめ 発表準備	2～6	演習：全員
14	発表会	2～6	演習：全員

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	特に指定はない			
参考書	NANDA看護診断の基本的理解	黒田裕子	医学書院	2005 2,520円(税込み)
	検査値早わかりガイド	医学芸術社		
	看護に役立つ検査事典	小学館		
その他の資料				

【評価方法】

PBL 40% 事例展開40% 出席20%で
評価する

【履修上の留意点】